

令和4年度 朝来市立(梁瀬小)学校 学校評価

学校教育目標

いのちを光輝かせる梁瀬っ子の育成
～自らの夢に挑戦し、
こころ豊かで自立する人づくり～

総合的な学校関係者評価

・学校運営協議会での取組が少しずつ定着しつつあります。今後は、教育目標と学年ごとの学びの体系化を地域と共有し、目標に向かって互いに補完し合える関係性を構築していく必要があります。そのためには、目標に向かって何が必要かという視点からの協議が大切になります。先生方の地域に参画していくという視点も大切になります。
・体験型学習の充実が図れてのびのびと育っていると思います。学習農園でもきちんとあいさつやお礼が言える子が増えてきました。人と接することで自分を大きく育てていくことが大切だと思います。
・コロナ禍の中、学習・生活・行事などその時その時対策をとりながら、うまく状況判断し、学校運営ができていたように思います。これからも学校方針・学校教育目標をもとに先生方は、大変ですが、一人一人思いやりを持って教育指導してもらいたいです。・教育活動や教育評価に満足はないと思っています。常に改善点や課題を持ちながら、発見していく実践であると信じています。将来に光明を願いながらの実践としてほしい。・近年の難しい世相の中、先生方のご苦労は並大抵ではないと思います。日々感謝しています。

自己評価 達成状況 (A: 達成している B: 概ね達成している C: あまり達成していない D: 達成していない)

評価の観点		達成状況	学校の取組状況・今後改善すべきこと	自己評価の妥当性 (評価項目ごとの学校関係者評価・意見等)
学校運営	地域とともにある学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	A	・今年もコロナ禍で学校の様子を見ていただく機会を設けることが難しかった。しかし、対策を講じ、2グループに分ける等の工夫しながら、保護者の方に様子を見てもらう機会を設けた。学校・学年・学級通信やホームページで情報発信はかなりできた。ホームページで発信していることを引き続きPRしていきたい。 ・地域と連携しての体験型の取組については、保護者等にも情報発信をしていき、参加していただく機会を設けていきたい。
		オープンスクール(学校公開)など住民参加の教育活動の推進	B	
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	A	・いじめ対応も予防も早期対応も組織的に連携し取り組めた。今後は特に児童の実態把握に努め、予防の強化に力を注ぎたい。 ・週1回の情報共有する場の設定や定期的に児童へのアンケート等を行うことができ、児童への対応につながっている。今後も継続していきたい。 ・年3回の子どもの声を聴くも今年は定期的にに行い、共通理解につながった。 ・今年も児童支援教員を中心に連携をとりながら、組織的に取り組めた。この連携は今後もしっかりと継続し、より早い対応ができるようにしていきたい。 ・今年も児童支援教員を中心に連携をとりながら、組織的に取り組めた。この連携は今後もしっかりと継続し、より早い対応ができるようにしていきたい。 ・規律やけじめ、学校生活のルールの徹底を図るために教職員で4月時点での共通理解をしっかりと行い、より同一歩調で取り組めるようにしたい。
		児童生徒の内面理解を図る指導の工夫	B	
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応	A	
	危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	A	・安全点検が定期的に行えなかった。今後は体制の見直しを図りたい。 ・避難訓練や事前事後の指導や学習も行うことができた。 ・今年も引き渡し訓練もでき、実際の引き渡し時にはスムーズな対応ができた。 ・防災におけるマニュアルの点検や見直しはできた。また昨年の課題であった防災に関する訓練もできた。防災面での環境についての見直しも、今後の課題である。 ・安全指導も計画的な指導ができ、下校指導も計画的にできた。
		地域課題に応じた防災、防犯教育の実施	B	
	特別支援教育	インクルーシブ教育の推進、校内の指導体制、個に応じた指導	A	・医療ケア児の対応の研修や支援計画や指導計画の見直しや評価もできた。担当者が責任を持ち、中心的な役割を果たし、個に応じた対応ができた。 ・定期的な校内支援委員会やケース会議の実施で、支援体制も整っている。今後もさらなる支援の充実をめざしていきたい。
安全安心に過ごすことができる学校づくり	新型コロナウイルス感染症対策	A	・コロナ対策は、全校児童に予防の大切さの指導や家庭への喚起、また、学校での活動においても、感染対策を講じて行った。	
あさごドリームアップ事業	特色ある学校づくり	B	・ふるさと教育として、カリキュラムの見直しや目標等確認しながら、コロナ対策を講じて行った。児童たちも楽しく取り組んでいたが、コロナ禍で計画通りの活動できなかったものもあった。	
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	主体的・対話的で深い学びの視点に立ち情報活用能力育成を含めた授業改善、授業のUD化の推進	A	・UD化については、年度当初に全職員が統一して共通理解を図り、実施したが、まだまだ定着していない面がある。さらなる共通理解に努め、推進していきたい。 ・総合的な学習の時間は、内容的には、充実してきたが、6年間を見通した計画の見直しや改善を図る必要がある。評価のあり方も検討する必要がある。 ・研究授業を全教員が実施した。しかし、一定の時期に集中してしまう課題については解消できなかった。さらに計画的に見直し、改善を図りたい。 ・ICTの研修等積極的に取り組めた。持ち帰りや活用の仕方等については、まだ研究が必要である。学年間の系統性もさらに追求していきたい。 ・児童の課題である「書く力の育成」に向けて、研修し、書く場面を取り入れた授業を全教員で実施した点は良かった。今後も継続し、検証していきたい。 ・道徳教育は、授業の時間をしっかりと確保し、全クラスで取り組めた。児童たちの「対話し考える」点については、さらに追求していきたい。
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	指導内容・指導方法の工夫改善、評価方法の創意工夫	A	
	道徳教育	授業研究の充実と指導の工夫	A	
	総合的な学習の時間	全体計画に基づく工夫改善	B	
課題教育	人権教育	人権尊重の精神の育成	A	・人権や命を大切にしたい教育は、とても大切だと思います。 ・自然学校をはじめ、体験学習は様々な発見や大きい成果があり、今後も子どもたちに体験の機会を設けてほしい。 ・今後、キャリア教育はすこく大事になってくると思うので、ぜひ力を入れて取り組んでほしい。また、学校運営協議会と連携して、充実できると感じます。 ・食育に関しては、地域ならではの食文化は、家庭でも伝承しづらくなっている。今後は、PTAと学校運営協議会が連携して、検討していけばよいのではないかと。
	体験活動の充実	自然学校、トライやる・ウィーク等を含めた体験活動の充実	A	
	食育の推進	栄養教諭と連携した食育の推進	A	
	キャリア教育	進路選択能力の育成・社会的自立に必要な態度や能力の育成	B	
その他	・特別活動 ・外国語教育 ・ICT活用	A A B	・特別活動に関しては、学級会活動の充実を図る意味で、定期的に話し合いの場を設定し、担任の共通理解を図り実施できた点は良かった。また、児童たちの自立を高めることをねらいに代表委員会の話し合いを充実させ、縦割り班活動、委員会活動等で児童の主体性が多く見られた。 ・外国語教育に関しては、ALTと連携し、工夫しながら取り組むことができた。デジタル教科書の活用の工夫についての研究など、教育の質向上にも努めた。 ・学校閉鎖時のオンライン授業の試みや授業でのICT機器の活用等、どの学年でも積極的にいった。教員の指導方向上にも努めた。ICT機器の活用については、まだまだ研修が必要である。	